

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

## JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



2026年3月3日の病院運営ハンドブック公表式典での集合写真。保健省次官、ルサカ州保健局長、ルサカ郡の公立・民間病院の院長に加えて、在ザンビア日本国大使館とJICAザンビア事務所から出席。

**ルサカ州保健局が病院マネジメント・ハンドブックを発行：州内の病院へ普及**

**ルサカ郡保健局、医療機器管理の強化に向けた会議を開催**



## ルサカ州保健局が病院マネジメント・ハンドブックを発行： 州内の病院へ普及

2026年3月3日、ルサカ州保健局は、一次・二次レベル病院を対象に「病院マネジメント・ハンドブック」の公表式典を開催しました。式典には、保健省次官のケネディ・リシンピ氏をはじめ、日本大使館やJICA関係者、ルサカ州保健局、さらに州内の公立・民間の医療施設から多くの医療関係者が出席しました。

開会にあたり、JICAカシオペア・プロジェクトの村井チーフは、このハンドブックがルサカ郡の一次レベル病院（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニヤマ、マテロ）の実践に基づき、1年以上かけて作成されたことを紹介しました。現場の声を活かしたこの執筆プロセスは、JICAや日本の国際協力が大切にする「参加型開発」の理念に沿っています。また、今後、ルサカ州で病院マネジメントの実践を普及する際には、既に経験のある一次レベル病院、ルサカ郡

保健局、ルサカ州保健局が他の施設にモデルを示せるという利点もあります。

ルサカ州保健局のチョオンガ局長は、これまでの取り組みにより、病院の課題が可視化され、目標をもった運営や体系的な問題解決が進んできたことを説明しました。その中心にあるのが目標管理ツールである「バランス・スコアカード」の活用であり、限られた資源の中でもより大きな成果を生み出すための工夫がなされていると強調しました。そして、ルサカ州が病院運営や医療サービスの面で、全国の手本となることへの期待を呼びかけました。

JICAザンビア事務所の小野所長も、プロジェクトを通じて導入された目標に基づく意思決定やガバナンスの仕組みにより、部門間や管理層間のコミュニケーションが改善され、より実行可能で根拠に基づいた意思決定が



ハイレベルの出席者を前に、病院マネジメントハンドブックの内容を紹介するカペンブワ医師（チレンジェ一次レベル病院）。

できるようになったと評価しました。また、ハンドブック作成に関わったすべての関係者の努力を称えました。

リシンピ次官は、このハンドブックの公表がカシオペア・プロジェクトの成果を象徴するものであると述べ、保健システムにおけるリーダーシップとガバナンスの重要性を改めて強調しました。さらに、医療機器の維持管理を例に、適切な病院運営の必要性に触れました。現在、政府はCT装置やエックス線装置などの整備を進めていますが、それらを十分に活用し、すべての人に公平な医療サービスを届けるためには、しっかりとしたマネジメントが欠かせないと述べました。また、ルサカ州保健局が中心となってハンドブックを作り上げたことを高く評価し、今後は全国の病院にも展開していきたいとの意向が示されました。

式典では、チレンジェー次レベ

ル病院のカペンブワ医師がハンドブックの概要を説明し、出席者はその概要を理解できました。

式典の翌々日には、ルサカ州内でハンドブックを展開する2日間のワークショップが開催されました。ハンドブックの内容が共有され、州全体で統一された病院運営を目指す取り組みが進められました。講師は、ルサカ州・郡保健局と一次レベル病院の担当者が務めました。グループワークも行われ、参加者は実際の取り組みを体験的に学びました。

最後にチョオンガ州保健局長は、今回の取り組みで得られた成果を持続させるために、各病院がハンドブックの内容を実践に移すことの重要性を強調しました。また、他の地域の参加者にも、ここで学んだ知識や方法を活かし、ルサカ州全体の医療サービス向上につなげてほしいと呼びかけました。



病院マネジメントハンドブック展開ワークショップにて、ハンドブックを受け取るルサカ州内の病院関係者たち。

## ルサカ郡保健局、医療機器管理の強化に向けた会議を開催

2026年3月17日、ルサカ市内のアーバンホテルにおいて、ルサカ郡保健局は医療機器管理の強化に関する会議を開催しました。会議には、医療機器チャンピオン、バイオメディカルエンジニア、医療機器技術者、医療機器担当者(チャンピオン)、さらに環境保健技術者が参加し、実務的な課題について議論が行われました。

今回の会議では、測定器を用いた水質モニタリングや、水の硬度に関する化学分析の導入、オートクレーブに接続された軟水化装置の管理方法、そして医療機器の遠隔保守の標準化などについて、実践例に基づき具体的な実施方法が検討されました。

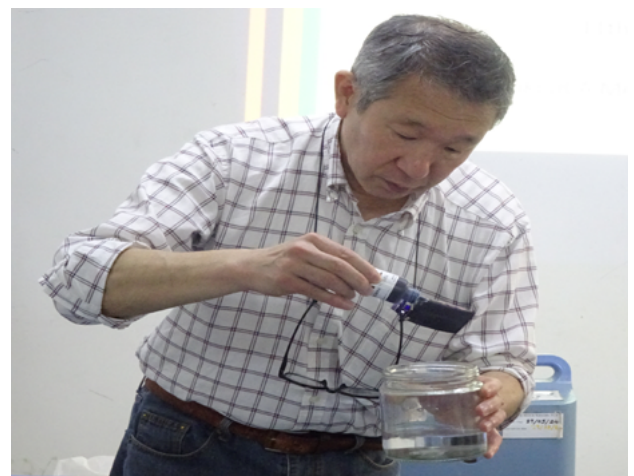
開会にあたり、ルサカ郡保健局の保健サービス局長の代理として挨拶した主任計画担当官のズルー氏は、「水質管理と医療機器管理の強化は非常に重要な取り組みであり、医療機器の安全性や稼働状況が医療の質に直結する」と述べました。また、これまでの「故障してから修理する」という対応から、「計画的な予防保守」へと

転換することの重要性を強調しました。これにより、機器の故障を減らし、使用できる期間を延ばすことができます。そのためには、医療機器委員会や各施設の担当者(チャンピオン)の役割が重要になると述べました。さらに、水質は医療機器に故障を引き起こす“見えない要因”であることも指摘しました。水・衛生・衛生管理(WASH)の取り組みを強化することで、患者の感染予防だけでなく、機器の故障防止にもつながります。最後に、5つの一次レベル病院の整備や機材の供与、技術支援などを行ってきたカシオペアプロジェクトを通じたJICAの継続的な支援に対し、謝意が示されました。

会議では、安食専門家(医療機器管理)が、遠隔保守について説明しました。メーカーのサポートを活用することで、現場での不必要な分解・修理を行う必要がなくなり、修理にかかる時間やコストを削減できる可能性が示されました。参加者からは今後の機器調達契約に遠隔保守サービスを盛り込むべきとの提案が出されました。



水質硬度の測定器とWebカメラを手渡すズルー氏(ルサカ郡保健局の主任計画担当官)



チャワマー一次レベル病院にて、さまざまな水源の硬度を医療機器チャンピオンに説明する安食専門家(医療機器管理)。

また、ルサカ郡保健局の医療機器担当官であるマタフワリ氏は、水質の測定について発表しました。水道水、ミネラルウォーター、飲料水を比較し、硬水が加熱されると「スケール」と呼ばれる白い固形物が発生し、それが機器や配管に付着して故障の原因となることを、実演をまじえて説明しました。

一方、カニヤマー一次レベル病院のバイオメディカルエンジニアであるムンバ氏は、医療機器の故障原因の分析結果を共有しました。医療機器管理には、シニアマネジメント、医療機器技術者、医療機器チャンピオンとこれらの協力関係が重要であることが提案されました。また、特に医療機器チャンピオンが、機器の状態を日常的に把握し、問題の早期発見や対応につなげる重要な役割を担っていることも強調されました。

今後のアクションプランとして

は、ルサカ郡保健局による医療機器部門の予算増額の働きかけ、故障原因の分析結果の共有と施設内での改善策の検討、定期的な技術会議の開催、そして保有機器一覧の更新などが挙げられました。

この会議は、各病院で直前に実施された医療機器チャンピオン向け研修の流れを受けて開催されたものです。研修では、修理記録の管理方法や予防保守、インベントリ管理などについて再確認が行われていました。

最後に、本プロジェクトの活動に用いた水硬度測定機と硬度測定試薬が、ルサカ郡保健局および5つの一次レベル病院に対して提供されました。あわせて、環境保健技術者が担う、正確な水質測定と記録の継続が、医療機器の故障原因の分析と故障予防に向けた適切な対応にもつながることが改めて強調されました。



医療機器チャンピオンへの再オリエンテーションで、機器の清掃方法を説明するカブエ氏(マテロ一次レベル病院)とマタフワリ氏(ルサカ郡保健局)。

PHOTO FOCUS



病院マネジメントハンドブック公表式典での小野ザンビア事務所所長とリシンピ保健省次官。



チパター一次レベル病院での医療機器チャンピオンに対する再オリエンテーション後の集合写真。



医療機器チャンピオンのバンダ氏に記念品を機器を手渡すカペンブワ医師(チレンジェ病院)。



病院マネジメントハンドブックにおけるルサカ州・郡保健局の役割を説明するズルー氏(ルサカ郡保健局主任計画担当官)。



病院マネジメントハンドブックの展開ワークショップで発言するチパター一次レベル病院のマタ院長。



病院マネジメントハンドブックの公表式典にて挨拶をするルサカ州保健局のチョオンガ局長。



ルサカ州保健局により開催された病院マネジメントハンドブックの公表式典にて会場を賑わせたダンスグループ。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ  
 編集: 萩原 悠  
 編集長: 村井 真介

連絡先  
 村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化  
 プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,  
 Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,  
 ZAMBIA  
 Cell: +260 765 192 865 (official)